大正十四年十月五日第三種郵便物認可　大正十五年九月二十一日　京都帝國大學新聞　（火曜日）　第四十號　（一）

京都帝國大學新聞

毎月三回發行
發行所 京都帝國大學 學友會新聞部
振替大阪七三二八九 電話上九八〇番
發行編輯兼印刷人 入山雄二

所謂不穩事件と學生の指導

經濟學部教授 河田嗣郎

今回の事件に就ては世間に公になる以前吾々としては多少の事實は知る機會を得てゐたのであるが事件が法律上の問題として果して犯罪を構成するや否や又その犯罪が如何なる種類の犯罪であるかといふ樣な點に就ては私として充分判斷し得べき材料を得てゐないし又相當に材料を得たとしても之について論ずるには自ら又その人があらうと思ふから茲に私はその點に就ては意見を述べることを差控へておく、昨年末事件が現れた際に經濟學部有志の一人として聲明書を出した際に述べた樣に私としては大學はあくまで學問の府であると信じてゐるしその學問は勿論自由研究に俟たなければならないものであつて特に社會的科學を研究する吾々としてはその自由の與へられんことを必要と考へその自由が與へられるに非ざれば徹底した研究はなし得ないものと信じてゐる此點は教授も學生も同一樣であつて學生と雖も只授けられるばかりでなく學ぶべきものである限り自由討究が許されなくては目的を果し得ないことは申すまでもない尤もその自由は研究上の自由であるから行動の自由とは別のことであり所謂運動の自由とも別のことである從つて今回の事件が果して研究の範圍を脫して行動に於て現れた事件であるか又既に社會的運動となつた事件であるかは私共に最も知りたいと思ふ所であつて若しそれが研究の範圍内を出でないものであるなら勿論問題とはならないと信じるのであるが若し誤つて行動や運動の域に入つて居りしかも國法に觸れ犯罪を構成すべきことが的確なのであるならばその人々が檢擧せられ又法の處罰を受くることありとも吾々學徒としてはもはや彼これ云ふべき限りではなくそれは公明正大なる司直の手に一任する外はない

併しひそかに考ふるに事件が果して研究の範圍内を超越して實行の域に踏込んでゐるや否やは頗るデリケートなことであつて餘程慎重に審議してもらはなければならない所謂テーゼなるものが新聞紙上に現れた豫審決定書に度々示されてゐるがテーゼそのものが矢張り研究上のものたるに止るかそれとも實行的のものであるかにいたつてはあの決定書を見たゞけでは一向に判斷の出來ないことである今後正當な手續きにより裁判の行はれるに當つては充分なる慎重審理をして欲しいものと思つてゐるそしてそれをなすに就ては只單なる法律眼のみを以て見ることなく社會に於ける生きた問題を直接に取扱つて居る研究をなす學徒の立場をも充分に考慮して貰はなければならぬ殊に極めて思想の自由なる年齡と境遇にゐる學生の作つたものとして同情ある態度を以て考へて貰ひたいと思ふそしてそれらの人々の行動が勞働運動の實際に當つて居る人々と多少の聯絡を以て行はれたとして只そのことだけを以て直に單純なる實行運動に着手したものとみられても困るのであつて此の種の問題を扱ふ社會的科學にあつてはかゝる意味に於ける實際との接觸を或る程度までは免れぬことであるからその點も充分考慮の中に置いて欲しいものだと思ふそれに就いてもかゝる事件は兎も角も警察沙汰となり裁判沙汰となつて多數の學生が一網打盡的にこれに關係あるものとして考へられ豫審の決定は兎も角有罪となつた事に就いては吾々直接に教授の職に在るものゝ深き責任を感ずる次第であつて世間からも教授上の指導そのよろしきを得ないからだとして非難を蒙つてゐる樣な次第であるその非難攻擊を蒙ることについては洵に逃れがたい責任を感ぜざる譯にはゆかないが併しその所謂指導なるものに就いては充分に事情を考慮してほしい點もある、元來大學に於ける學生の指導なる事がらは學問研究の方法に關するものであつて學問研究の到達點を豫定しこれに向つて一筋に學生を導いてゆく意味では斷じてない即ち既に述べし如く自由討究のもとに學生は自由なる立場において自由に攻究をすゝめてゆくべきでありそれにその手段方法を授けて研究の道を誤らぬ樣にするのが指導であつて研究の結果如何なる結論に到着するかの問題は全く攻究者の研究の成績に俟つ外はないのである然るに世間にはやゝもすればその指導とは或る定められたる目標に向つて導く事であるかのごとくに解釋し殊に思想方面に關する指導についてはよく思想の善導なる言葉が用ゐられるがそれは一定の埒を定めその内に學生を指導してこれにいれしむ樣にすることを意味するやうであるが吾々學問をなす人間の側よりすればかくのごときは最も困ることである或る豫定されたる方針に從つて兎も角も人々をこれに導き又一定の型を定めて諾否を論ぜず人々をその型の中に鑄込んで仕舞ふと云ふことは全然自由討究の精神に反するところであつて學徒としては最も排斥すべきことだと信ずるものであるだからその意味に於て若し世間が學生一般の指導を吾々に要求するならば吾々としては全く其の立場に困惑せざるを得ざるところである

右の樣な考へによれば學問の府に於て研究をなす事を專一としてゐる學生は思想上の立場より學問上の主義等に在りて如何なる立場をとり如何なる主義をなすとしても教授をなす任に當る吾々としては何等之れに干涉すべき餘地はなく各個人の自由意志を尊重しこの自由な立場を尊敬することは又吾々の任意であらねばならない尤も大學は學問研究以外に『人格の陶冶および國家思想の涵養に留意すべきもの』となつてゐてこの點に就いては吾々も常に考へを致さなければならない次第ではあるが何を言つても現在の實情では我が京都帝國大學だけにても四千名以上の學生があり法、經濟學部の如きは各千名近くの學生を收容してゐるのであるから少數なる教授、助教授、講師を以てして其の一人々々に就いて充分なる人格の陶冶を行へと云はれたとてそれは本當に無理な註文で昔の塾のやうに少數の弟子が師匠と互に接近して日夕親しく學び且つ交はる樣であつたならば人格の陶冶は可也遺憾なく行ふことが出來やうが今日の學校教育にては最早一般的に行はれがたいましてや帝國大學や或る私立大學の如く一組數百名の學生があつてそれが數組にわかれ教授の任に當る人々は少數で各講義を擔任し可也多くの時間講義や實驗をしなければならない狀態になつてゐるそれに自己の攻究も常に日進月步の學界におくれない樣にしてゆかねばならない境遇に置かれてゐては學生各個に亙る人格の陶冶は言ふべくして實は容易に行ひがたき所である千手觀音の樣に體が出來てゐても及びがたい有樣である、かゝる實情の下で今四千名を超えた學生の中から十數名法禁にふれるやうな思想を持つ人々があらはれたからとてこれに對してた責任に當らなければならないといふことになれば今日の樣に思想の流動して定まらない時代にあつては(これは世界一般の事である)總長の如きは毎日辭職してゐなければならない樣なことにもなるのである若し眞に學生の人格陶冶を完全に行ふことまで社會が大學なるものに對して要求するならば帝國大學にしても今少しくその數を多くし又教授者の數をも多くしてその力をも充實し學生の收容人員を成るべく少數にしてもらはなければ到底出來る相談でない國家としても眞にかくの如きを要求するなら今少しく文教の爲に國費を投じて然るべきだと思ふ現在豫算の上にあらはれた處を見ても他の方面に比較して文教のための經費は誠に僅少である、さう言へばとて私は金さへかければ教育の效果があがるといふのではないが右に述べる樣な事情だから或る程度迄は設備を完全にするのが必要でそのために經費のいるのは當然の事だと思ふ

又學生の個人的方面に關しては學生監を置いてあるけれども數千名の學生に對して一人の學生監で思想を善導し人格を陶冶し國家有爲の人たる樣學生を薰陶せよと註文した處で本當に無理な話ではあるまいかそしてまた今回の樣な問題があらはれた際學生監の監督不行屆を責むるが如きは私は或る意味においては慘酷なことであると思ふ若し眞に學生監をして學生を善導せしめ樣と思ふなら又或る人々が要求する程度に善導の實を擧げさせ樣とするなら學生十人につき一人宛ぐらゐの學生監を置かなければその目的は達せられまい、そんなことをいくら述べて見た處で際限のない話で徒らに愚痴をこぼすことになるのにすぎないがただ私として云ひたいのは學生の個人個人についての思想方面に關する所謂善導は中々困難な事であつて吾々も固よりその職にある限り最善を盡すことを辭する譯には行かぬけれどもあまり多くを吾々に向つて要求せられても到底その要求にそひ能はぬ樣に今の大學なるものが出來てゐるといふことであつて今回の事件について考へてくれる社會が此の制度及び組織に關する點をも併せて考へてもらひたいそして今の學校教育一般さらに教育制度一般とに就て深く思ひをいたしてもらひたいものである私自身としてもその事については種々思ひ惱んでゐて廣く社會と共に攻究して改善の實を擧げたいものだと冀つてゐる(談)

學問的論議の發表を望む

法學部教授 田村德治

大正十四年十二月一日及び二日に亙りて豫ねてより我が京都帝國大學の一部の間に設けられたる社會科學研究會の行動を心安からず觀て居つた京都府警察官は、遂に右の會員の犯罪の嫌疑が有ると爲し、突如として同會員の一部の者の居住を襲ふて、世間の視聽を聳動した。彼等は、其の襲ひたる學生の居住所に就きて、嚴密の捜索を遂げて、多數の印刷物其の他を押收し、又十數名の學生の同行を強要して、之を警察署に留置し、引續き行政上の檢束の形式の下に數日に亙る拘留を科し、後漸くこれを釋放した。斯くて事件は一度之にて落着するが如く見えたが、併し實は之を以て終焉するに至らず否却てそれは、更に擴大し且つ深刻と爲つて、やがて之等の學生と共に、他の學生及び他の大學その他の學生も、遂に檢擧せらるゝに至りその結果、彼等は、一月中旬、未決監に收容せられ(これと共に新聞紙その他の出版物の、これに關する記事を載することを禁止した)後約八ヶ月の審理の結果、彼等の行爲は、治安維持法及び出版法(一部は不敬 [illegible] 關係に立つ我が大學當局、及び教官のみならず、廣く一般に社會の耳目を聳動せしめたるものであつて、事件發生の當初に於て、囂々の世論を惹起し、現に學界、教育界及び言論界は、今尚事件の推移に、深甚の注意を怠らざるに似て居る。我が京都帝國大學當局及び多數の教官及び學生も、一方に於ては國家及び社會に對して、而して他方に於ては學生及び父兄に對して有する責務に鑑みて、此の事件の勃發に關して決して無關心たり得ず、從つてこれに對して最初より最善の注意を拂ひ、且つ適當の處置を講ずるに甚だ努めた。

思ふに今回の事件の樞軸を爲し且つその重大を形成する因素は、固より法律學的論議——と云つても此の場合では特に制定法が眼目させらるゝのであるが、——の方向に存せねばならぬ。事件の本流に屬する被起訴學生の行爲の犯罪を構成するや否やの問題も、亦その傍流を形づくる警察官の處分の手續上の違法の問題も、皆法律——即ちこの場合に於ては制定法——の解釋に依りて決せらるゝが如きは、之を示す。實に法律の解釋こそは、今回の事件の運命を左右し、且つその落着を遲速する直接且つ最後の方法であつて、從ひて今回の事件の討議に於て、法律學的論議は、最も有效であり、且最も重要であることは、獨り今回の事件の解決に關してのみならず、あらゆる事件の解決に關しても、然らねばならぬ。是れであるが故に、法律學的論議は、人生にとりても甚大の意義を有し、從ひて又人々の常に注意し且つ傾聽するに値するものとせられ得るのである。近時一般に人々は動もせば法律學的論議に輕蔑の態度を採る傾向の存する如くであるが、それは實に悲しむべく且つ憐れむべき、根本の誤謬であらねばならぬ。固より制定法の或程度の不完全、從ひて又法律學の或程度の不完全はこれを認む。換言せば法律學の構成に本來の實相を遠ざかる多くの不自然の論議のあるだらうことはこれを否まぬ。けれどもそれは學問的價値の問題であつて——と言つても、法律學に學問的價値が無いとする人は多くは滑稽の想定に過ぎぬ——人生に對する意義の問題ではあらぬ。制定法、從ひて法律學の實際的必要は普く承認せられたるところであらねばならぬ。從ひて本來の實相に關する論議に於いては兎も角として、個々の事件の實際的處理の問題に於いて法律學の成果を輕視するは救濟せられ得ぬ誤謬であらねばならぬ。一國の憲法は決して卒爾の間に成立せず、又その法令は決して遊戲の心に於て作成せらるゝものではあらぬ。一國の運命を決し、且つ國民の生活の方法を定むる之等の制定法、即ち一般的に謂はゞ法律に無關心であり、否時に無關心であることを誇るは、語を激越にせば爲政者を侮辱し且つ自己を侮辱するに他ならぬのであつて、從ひて又斯くの如き法律を闡明すべき法律學的論議に對して輕蔑の態度を採るは、こ

斯くの如くして今回の事件は、その主要の問題に於いて、主として法律學的方面、詳言せば刑法、憲法、行政法延いては國法學、社會法等の學問の方面より究明せられ、解決せられねばならぬが、然しこれを一般的に謂はゞ、今回の事件を究明し、解決することに關係の有る學問は、固より法律學のみに限らぬ。例へば學生とその父兄、大學とその教育等の如き、重要なる意義を有する問題に關しては、道德學上、教育學上の解明が必要とせられねばならず、又例へば學生、否一般に人々が、その正當と信ずる行爲を爲す場合に、而してその行爲が、制定法に依りて禁止せらるゝ場合に、採るべき態度の如き微妙なる問題に對しては倫理學上、人生觀上、宗教學上の究明が仰がれねばならず、次ぎに例へば社會運動の原因たる社會問題の實相の何たるか等と云ふ如き深刻の事實の問題に對しては、恐らくは經濟學、社會學等の解明に依りて、初めて洞察せられ得べく、又例へば社會運動と青年の心理、社會運動の現情と將來、其の功過等の如き事件に關係の深き興味の多き問題は心理學、社會學——否生物學、生態學等——の說明を大要とせねばならず、更に例へば國家、換言せば主として所謂行政官廳及び司法官廳の、社會運動に對する取締若くは糾彈の態度及び方法は、如何にあるべきか等の問題に關しては行政學、政治學、殊に社會學、政策學、學究等の究明を必要とせねばならぬのみならず、又例へば凡て前掲の諸多の問題の歷史の考究に關しては、歷史家、學說史家等の示教を仰がねばならぬ。之等の問題の或者は、或は制定法上、既に規定せられてあるが故に、法律學の對象と爲り、或は然らぬも、法律哲學の領域に於て、獨特の見地に於て取扱はれ得るにもせよ、然しその本來の實相は、固より右の諸學問の究明且つ解決に俟たねばならぬ。疑ひもなく今回の事件は我が京都帝國大學々生の一部に依りて設けられたる社會科學研究會を中心として惹起せられてゐる。それ故に京都帝國大學當局も、教官も、將た學生もこれに對して只晏如として傍觀的態度を採り得ず、否採り得ぬ感を深くしつゝある。我々は——その當局たると、教官たると、將た學生たるとを問はず——固より一方に於ては諸多の學問の方面より此の事件の有する諸意義及び諸性質等を批判し且つ究明すると共に又他方に於ては特に法律學的に、正確に此の事件の惹起したる諸問題の性質並に其到達せらるべき結論を闡明且つ研究して以て一方に於ては、我々の心に歸從を示すことの一助たらしめ、又他方に於ては、我々が國家若しくは社會に對し、又學生に於てはその父兄、當局及び教官にとりては學生の父兄に對して有する責務を明確にしたい。我々は、今回の事件に關して、當局及び教官は固より學生も亦諸々の學問の方面及び就中法律學の方面より、夫々の研究の結果を公にせらるることを望みて止まぬ。(談)

綜合大學講座

第二回會員募集
締切前にても申込次第配本
毎月二回發行・一ヶ年完了
◇四六版紙裝函入各冊平均二百四十頁◇
全二十四卷・總計六千頁

講座内容
哲學概論……大東文化學院教授 北吟吉
日本思想史……文學博士 補永茂助
東洋哲學史……文學博士 宇野哲人
西洋哲學史……日本大學教授 松原寬
宗教概論……日本大學講師 江部鴨村
佛教概論……文學博士 忽滑谷快天
基督教概說……哲學博士神學博士 元田作之進
倫理學……早稲田大學教授 松永材
教育學……東京高師教授文學博士 [illegible]
心理學……高等師範助教授 [illegible]
性教育……市川源三
文藝論……マスター・オヴ・アーツ 中桐確太郎
[illegible]

會費 一ヶ月金二圓 三ヶ月金五圓七十錢 六ヶ月金十一圓 一ヶ年全額金二十一圓 ◎外に送料一ヶ月十二錢宛を要す。

世界哲學大系

全二十四卷・一ヶ年完了
◇四六版總布製・各冊平均二百五十頁◇
總計六千五百頁
毎月二冊配本正確

編輯顧問
文學博士 井上哲次郎先生
文學博士 宇野哲人先生

一 プラトンの哲學
二 アリストテレスの哲學
三 デカルトの哲學
四 スピノザの哲學
五 ライプニッツの哲學
[illegible]
十五 老子及莊子の哲學
[illegible]

會費 一ヶ月金二圓六十錢 三ヶ月金七圓五十錢 六ヶ月金十四圓五十錢 一ヶ年全額金二十八圓 ◎外に送料一ヶ月十六錢宛を要す。

申込締切 十月五日
内容見本無代進呈
◇今すぐハガキで申込あれ◇

發行所 東京芝區白金三光町 聖山閣 振替東京四二五〇四〇番 電話高輪七〇五八番

都市問題

東京市政調査會發行
九月號（第三卷第三號）
◇論說及研究◇
都市の結核問題……宮島幹之助
英國に於ける住宅政策(三・完)……河合榮治郎
公共企業に於ける勞働問題……岡野文之助
都市社會行政の根本方針……三好豐太郎
都市產業教育論(市民賞一等入選論文)……佐久間虎雄
◇資料◇
帝都從來の町界町名及地番に就て……富樫建造
◇都市問題索引◇
◇最近都市事情◇
▽復興事業進捗狀況(東京の部)
▽東京市の牛乳配給事業
▽大阪市の淀川淨化計畫
▽普選に依る濱松市會議員選擧
▽イギリスに於ける無軌道電車事業成績
▽ニューヨーク州の新住宅法
◇新著圖書◇
定價 一冊 五十錢 送料二錢 半年三圓 一年五圓五十錢(稅共)
東京市神田一ツ橋通 有斐閣取次

民族

第一卷第六號（九月號）（隔月一回發行菊判二百頁）
シ、虫の迷信幷に庚申の話……南方熊楠
朝鮮及日本の二單語に就て……ラムステッド
呪術論……宇野圓空
古代民族の進んだあとマナの觀念……赤松智城
天狗松神樣松……柳田國男
我が古代民族とその重要語……幣原坦
漢式の鏡式土器……濱田青陵
ロシア人類學界の二三……久保榮三
第三回汎太平洋學術會議……松村瞭
書庫の一隅より……石田幹之助
地名考說……柳田國男
ロンドンより……梅原末治
西南文運史論を讀む……花見朔已
女人政治考を讀む……松本芳夫
瀧川政治郎
資料、報告
資料二十數篇
既刊號は申越次第進呈す
定價壹圓（送料六錢）
東京麴町區上六番町五 民族發行所 電四谷四三四九番 振東京七二九九〇番

CURRENT OF THE WORLD

主筆 今井信之氏
本誌九月十五日號は
波蘭最近事情號
英米を始め各國一流の新聞雜誌の粹を集め、世界最新の思想を吸收し、更に懇切なる註釋を附して英書讀破力の增進を計るもの。本號は特にポーランド國の最近事情、ピルスズキーのクーデタを中心とせる同國政界の機微を紹介せる記事を滿載す。
(毎月二回配本、月壹圓、年拾圓)

CONTENTS
Poland and Her Problems.
Poland's Crisis and its Background.
Why Poland si a Problem.
Poland and Pilsudzki.
Poland's Economic Impasse.
Pitsudzki's Coup.

新刊洋書選讀
The Origin of the Next War.
—By Jhon Bakeless.
□ 本誌の一部を割き英米新刊書につき新樣式の解說を試む。附註は親切正確也。

内容見本 ハガキにて進呈す 三錢切手十七枚にて本誌即送す
東京市本郷區西片町十番地 英文世界時潮會

和洋古書高價買入れ

◇葉書又は電話にて御報次第參上
◇値段不安を感ずる方は書面にてお問合せを乞ふ
(電話にて値段お問合せは謝絕す)
京都市三條寺町東入(北側)
古書專門 杉田大學堂
永年家業勵み居り候。お引立の程願ひ上げ候。

サナトリウム
大分縣別府市朝見山腹
鳥潟保養院
醫學博士 鳥潟豐
醫學博士 八代春雄
醫學士 福田玄昶
醫學士 福島義信
(案内お申込次第進呈)

南海の療養地
サナトリウム
院長 醫學博士 川村六郎
入院料 附添二圓半均一
大阪府泉南郡淡輪村海岸(電話二八番)
淡輪療病院

中產者の爲めに設立せる
肺氣候療養所
海拔壹千尺・風光絕佳
紀州野上・八幡山腹
野上病院
入院希望者は前以て照會あれ

Nankoin--Hospitalo
Sanatorio de la Pulmotuberkulozo
Direktoro: Doktoro K. Taka[illegible]
Loko: Tigasaki, Kanagawa-ken.
Telefono: Tigasaki No. 2.

サナトリウム
病院案内

東西十大學に跨る 社會科學研究會事件

八ケ月の長き取調べの後 豫審漸く終結す

客臘一日全く思ひがけなく私達の頭上に一箇の石が投ぜられた。その石の描く波紋は又意外に廣く且深いものであつた。内にあつては本學全學生間に偉大なるセンセーションを蓋起すと共に、外に在つては遂に議會の問題となるに至つた。或者は驚き或者は怪持つ凡ての人々の前に筆を執るべき重い義務を負はされてゐたのであつた。然し僅かに私達のみで私達の筆は禁ぜられねばならなかつた。翻來八ケ月今に至つて始めて禁を解かるゝ日を得た。事を錄するに當つて私達の心は痛み持つ筆は餘りに重い。私達はその是非を知らない。唯ここに單に「當局と彼等」の問題であるのみならず私達全學生の延いては私達の國家社會の問題であることを信ずるのである。從つて又その解決も凡ての人々の上に負はされてゐる。茲に眞相を報告する所以である。

突然の檢束

學生憤慨す

昨年十二月一日早朝京都府警察部は京大及び同大學生にして社會科學研究會に關する者十四名を檢束すると共にその家宅を捜索し多數の書籍、プリント等を押收し約一週間に亘つて檢束取調べを行つたが、事件が餘り廣範で且つ大學關係で慎め同等の打合せもなく、又その手續に適法ならざる點があつた爲め著しく大學側のセンセーションを昂め、七日拂曉に至り遂に本學學生集會所に於て其の報告會が開催されるゝに至つた。尚學内に於ける研究の自由に關する輿論は沸騰して遂に十四日法、經第一教室に於ける學生大會となりその況奮の實行委員として法學部平利文、農學部柳瀬嚴毅、經濟學部竹内平蔵の三君は十五日京都府警察部に出廳警察部長、久保田特高課長を訪ねて抗議の意を傳へると共に翌十六日夜上京、廿二日帰崎内務次官と頗る滿足な姿見を得た。越えて廿四日法學部教授一同及經濟學部教授有志の名を以て二通の抗議書の提表を見るに至つた。

遂に大檢擧

新聞記事差止

十二月事件直後に沸騰した輿論は新らしき年を迎ふると共に一時小康を得たもゝ如くであつたが此間に警察機關は盛ん調査を進め一件書類を檢事局に送つたので檢事局は一月十四日突如本件に關する新聞記事を差止むると共に東京に於ては新人會本部其他數ケ所の家宅を捜索し翌十五日朝京都府警察部に於ては本學社會科學研究會員十二名同志社大學研究生二名を「出版法違反」の嫌疑により同時に本學經濟學部教授河上肇博士、農學部大學院學生杉野忠夫氏及び學生石田、泉、岩田、栗原の四研究會員の私宅及び京都地方裁判所、同地検、白井氏其他學生二名）神戸（關西學院高等部上、松澤、新明、田村）嚴毅及び學生七名）仙臺、福岡等に於ても同様の家宅捜索を行つて多數の膨寫刷のもの、レーニン、マルクス、エンゲルス等の著書、社會科學關係の書籍、日記帳、私信等を押收した。河上博士の書籍より押收したものは左の如くである。

○唯物史觀の略解（河上肇著）
勞働者問題叢書第十一篇
○Marx Wage-Labour und Capital（博士の日本譯あり大學圖書館藏書
○Marx Lohnarbeit und Kapital（博士藏書同上の譯本あり）
○Engels Grundsätze der Kommunismus（後藤信夫氏の邦譯本あり）
○Lenin Imperialisms（青野季吉氏の邦譯本あり）
○社會科學研究會々員よりの書簡數通、名刺一葉、產業勞働調査所報告（勞働運動）、プロレットカルトの理論及實際（公刊のパンフレット）

事件擴大して

檢擧東京に及ぶ

斯くて第一回の檢擧のみで終つたかに思はれた此事件は更に本學々生一名の拘引を始めとして別表の如く前後四回に亘り東大、京大、同大、早大、慶大、日大、關學、大外語、神高商の學生又は卒業生の拘引さるゝもの相次ぎ四月十二日の拘引さるゝもの相次ぎ四月十二日の弾圧は遂に本學部教授一同及經濟學部教授有志の名を以て二通の抗議書の提表を見るに至つた。

拘留中の經過

嚴冬から酷暑へ

一月十五日第一回の拘引が行はれるや直に其の友人は防寒具携帯の上警察署に其の友人の差入を行つた。拘引狀によつて「出版法違反」の嫌疑であるこの事件は特殊の事情による近親者の接見も許されるやうになつた。又未決監内からの通信によつて要求せられた圖書の差入は自由になつた。四月中旬第二回の圖書差入（各人十冊以内）が行はれ更に六月中旬第三回の差入がなされた。此間弘文堂滿鐵書房を通じての購讀は充分の便を得たと思ふ。

檢拘引者の健康はひどく惱いこゝ云ふ程でもなかつたが不衛生な獨房の中で不自由な起居をしてゐるのだから平常に比べすれば勿論惱くはあつたであらう。

○Engels Grundsätze der Kommunismus（後藤信夫氏の邦譯本あり）
○Lenin Imperialisms（青野季吉氏の邦譯本あり）
○社會科學研究會々員よりの書簡數通、名刺一葉、產業勞働調査所報告（勞働運動）、プロレットカルトの理論及實際（公刊のパンフレット）

事件擴大して

檢擧東京に及ぶ

斯くて第一回の檢擧のみで終つたかに思はれた此事件は更に本學々生一名の拘引を始めとして別表の如く前後四回に亘り東大、京大、同大、早大、慶大、日大、關學、大外語、神高商の學生又は卒業生の拘引さるゝもの相次ぎ四月十二日の拘引さるゝもの相次ぎ四月十二日の弾圧は遂に本學部教授一同及經濟學部教授有志の名を以て二通の抗議書の提表を見るに至つた。

學生檢擧事件所感

文學部教授 和辻哲郎

檢擧がつかない。恐らく双方の混合ではなかつたと思ふ。それについて自分は社會科學の「研究」が、あくまでも觀實をやる空想の類と思はれる點も多いが、本學の任務を重ず上に重大な影響あるを思ふ故に敢へて取扱ひについて御配慮を煩はし度いと思ふ。

廿四日荒木總長は佐々木、阪口兩學部長を伴ひて東上し、若槻内相其の意を聞きすさいふとであつたので更に文部大臣を訪れて右の報告をなした。

文部大臣として本件に關し諸先生方の批判・感想の一部は本號所載の通りですが尚夫々の立場から續々御寄稿あらんことを偏へに希望いたします。

本學當局の執つた 對外對内處置

總長の内相文相訪問 社會科學研究會改造

事件發生後大學當局に於ても、如何に處すべきかに就て適當に考慮すべく、荒木總長は十二月十七日之を評議員會に諮つたが、評議員會は總長に一任した。

豫審終結して

保釋及び責付

嚴冬より上旬すぎまで学業上に亘る監禁のため遂に著しく健康を害はれた學生は七月の初めから別表の如くぼつ〳〵保釋又は責付人十冊以内が行はれ更に六月中旬第三回の差入がなされた。此間弘文堂滿鐵書房を通じての購讀は充分の便を得たと思ふ。

四月中旬第二回の圖書差入（各人十冊以内）が行はれ更に六月中旬第三回の差入がなされた。此間弘文堂滿鐵書房を通じての購讀は充分の便を得たと思ふ。

法學部

聲明書要旨

經濟學部

聲明書要旨

學園の秋を飾る

理學部特別講義

集金郵便を差立てます

十六名に停學處分

豫審決定書の發表を待つて 九月十九日付で決行

眼鏡 正確 専門 廉賣
京都大學病院眼科御指定
府立醫科大學眼科
吉川眼鏡店
京都大學病院 眼科小兒科門前
電上四九一番 振替大阪三八七二八
獨逸カール、ツアイス會社 直取引

Gestetner's
英國 ゲステツトナー輪轉謄寫機
能率の增進と經費の節減には 世界で最も優越せる
御使用をお奨め致します
清淨なる事
印刷の鮮明なる事
仕事の迅速なる事
取扱の簡易なる事
永く使用に耐ゆる事
正價六號機フールスケヤップ型（約半紙大）金五百五十圓
七號機ブリーフサイズ型（約新聞半頁大）金七百三十圓
日本總代理店合資會社金剛商會
關西一手販賣店 大阪市北區梅ケ枝ビル
森脇商店 電北（一九五六）三二五 九八八、五八六八

宮内省御用達
京都帝國大學御用 表具師 九年堂
京都五條東洞院
電下二三四五番

京都帝國大學眼科教室
日本赤十字社病院眼科部
關西各病院眼科部
御指定眼鏡調製所
白井直眼鏡店

店頭を飾る品は最も完全な既成品
商品券を買ひます 全國著名商店
醫學部
烏丸丸丸上町
カラスマルハウス
電四六三三上

株式會社 森田屋洋服店
烏丸丸太町

◇……農場の秋（農學部農場へ近頃舶來した二頭の山羊君）

本學に御成りの 瑞典皇太子殿下
考古學御研究のため 文學部陳列館へ

目下御來遊中の瑞典皇太子殿下には近く本學へ成らせられ本部に於て御少憩の後文學部陳列館にて種々考古學研究資料を御覽遊ばせらるゝ筈。皇太子殿下は御年四十五歳に渡らせられ考古學に對しては御造詣深く又その御生家ベルナドット王家は美術、學問に御熱心にして殊に殿下の伯父君に渡らせられる Eugen 殿下は風景畫家として名高く祖父グスタフ二世は北極探險のノルデンショット、中央亞細亞探險のスペンヘリン等を保護し學問上貢獻せられる所が多かつた。殿下は最初スカンヂナビヤの考古學に興味をお持ちになりモンテリウス等の影響をうけて益々御熱心に研究遊ばされた。最初十六歳の御時トルガン地方にて附近の古蹟を御研究になり、ウプサラ大學を卒業されて以後オスカル、アルムグレン等御指導の下に一層深く御研究になりハガにてビョルン王の塚を御發掘になり、一九〇五年に御結婚されてよりスケーンのソフイエロに居られその附近の地を發掘されて石器時代の御研究を深められた。そして度々發掘の結果などを瑞典のローヤルアカデミイの雜誌等に發表せられた。又殿下には國内のみならず國外殊にギリシャの古代研究に着手され一九二〇年アルゴルス州のアジーネを發掘され一九二二年より二六年迄之を續け、殿下自らも親くその地に臨まれて、そこにミケーネ時代の土器を發見せらるゝに至つた。又支那地方にては殿下の保護の下にアンダーソンは支那の地質調査中支那先史時代の研究に從事し、その結果奉天、河南、甘肅省等にて採色土器を發見した。之は支那考古學の重要なもので學界を驚かしたものである。日本に於ても下總の貝塚發掘には、殿下自ら上衣をぬいで研究に從事される熱心な御態度は、全く一學究の徒と變らせられる所なきかの如くに拜せられた。京都以西に於ては濱村、西田（直）、小川教授等御案內することになつてゐるが。殿下には京都に六日、奈良に六日御滯在になり古墳名所を御覽、それより高野山にお登りになつて歸途大阪にて住友男の支那土器、村山氏の所藏品等を御覽の上軍艦にて宮島、別府にお立寄りになり大分では石佛を又朝鮮に渡られては慶州の古跡、京城では樂浪時代の古跡、高句麗の壁畫ある古墳等を御覽になり、それより奉天を經て北京に渡らせられる御豫定であると。

東西兩大學の 競技日割決定
來る廿六日の水泳を皮切に

今秋京都に於て擧行せらるゝ東西兩帝大競技大會日割細目は、過般本學總務委員上京、東大側と協定を遂げた結果愈左の如く決定した。

- 水泳　九月廿六日（午前十時）本學プール
- 馬術　十月三日（午前九時）本學馬場
- 懇親會　十月十五日（午後三時）平安神宮神苑
- 野球　十月十六日（午後二時）本學運動場
- 陸上競技　十七日（午前九時）本學運動場
- 庭球（ダブル）　十七日（午前十時）本學コート
- 柔道　十月十七日（午後一時）京都武德殿
- 庭球（シングル）　十八日（午前九時）本學コート
- 弓道　十月十八日（午前九時）京大弓道場
- 劍道　十月十八日（午後一時）京大道場
- 蹴球（ア式）　十九日午後三時京大運動場
- ホツケイ（オープン）　十九日（午後二時）京大運動場
- 音樂　十月十九日（午後七時）京都公會堂
- 製作展覽會　十月十六日より十九日まで學生集會所階上

【備考】庭球、野球、ホツケーは雨天順延、野球はこの場合場所の變更あるべし

彼再び覇者たるか 我軍復讐成るか
先陣を承る水上競技戰

對東大水泳競技會は運動週間の皮切として來る廿六日本學プールに於て擧行せられる事となつた。我が水泳部では八月二十日よりプール近くに合宿して毎日十時と三時を練習時間と定めて猛練習をしてゐる。漢稻垣、中距離に武田を以て對抗すべく、之に加ふるにブレストは我が得意とする所であるから、勝敗の決は一にリレーに懸る事となり、目覺しき大接戰を演ずる事であらう。尚本年はウオターポロも去年新に競技種目に加へられて行はれる筈。

東西兩大學聯合 製作展覽會
作品を募集

- 種類・繪畫・彫刻（共に種類を問はず但サイズは準備の都合上九月中に建築學教室石川、御厨迄申出る事）
- 資格・本學關係者に限る
- 締切・十月十二日

京都帝國大學 學友會

第二陣は馬
枚をふくんで敵を待つ

馬術部の對東大競技會は軍馬借用の都合上運動週間中に擧行することが出來ないので、來る十月三日（日）午前九時より本學馬術部馬場に於て行ふ事になつた。選手十餘名既に決定し、自ら愛馬の手入管理をなしつゝ休暇中鍛へた腕に最後のよりをかけてゐる。競技種目は團體馬場馬術（六名宛）障碍飛越（七名宛）及び今年より新に加へられた打毬である。因に競技の審判は騎兵學校馬術課長遊佐中佐に依頼することになつた。

十有八校を拔いて 本學競技部優勝す
關西學生聯盟陸上大會に於て

八月中江田島海軍兵學校にて合宿練習した競技部は九月歸洛早々東京より森田俊彥氏を迎へて專任コーチとし、引つゞき本學トラックにて猛練習を行ひ專ら今秋の活躍に備へてゐる。今シーズン活動の首途に去る十一、十二日大阪築港運動場における第六回關西學生聯盟主催競技會に出場し、トラック、フキールドにおける各選手の素晴らしい活躍振りを見せ遂に關西の諸豪を集める十八校を拔き總得點フキールド得點千六百米突リレーに優勝して大トロフキー及び優勝旗二旒を獲得した。當日の成績左の如し。

決勝成績

砲丸投（一一米二四）一猿丸（同大）棒高跳（三米一六五）一井街小津（京大）六鈴木（京大）ホ・ス・ヂャムプ（一二米八九）一、仲川（外語）三星名（京大）六福間（京大）百米（一一秒二）忠田（三高）二馬場（京大）四進藤（京大）二百米（二三秒八）一松居（同大）三馬場（京大）四百米（五二秒）一松居（同大）八百米（二分一一秒一矢柴（關大）四原（京大）千五百米（四分三一秒八）一矢柴（關大）五仁科（京大）五千米（一七分三五秒）一津田（關大）四松原（京大）高障碍（一六秒）一井街（京大）二福間（京大）三望月（京大）低障碍（二六秒）一井街（京大）三福間（京大）四望月（京大）八百米リレー（一分三八秒）關大千六百米リレー（三分四〇秒四）一京大チーム（進藤、柏原、土居、原）走幅跳（六米四五）一星名（京大）走高跳（一米七〇）一吉川（關大）二千田（京大）六福間（京大）槍投（五一米三九）一、三雲（山口商）五福間（京大）六、星名（京大）圓盤投（三一米五七）一劉（京大）鐵槌投（三三米七九）一塚本（同大）六藤浪（京大）五種競技（一四點）一星名（京大）總得點一（優勝）京大（一〇二點二〇分一九）二關大（九二點二〇分一九）三同大（五八點一〇分七）フキールド得點一（優勝）京大（三八點二分一九）トラック得點一（優勝）關大（六二點）二京大（五七點）

引續き猛練習

尚大阪より凱旋せる競技部は休養の暇もなく引續き農大グラウンドで毎日午後三時より火の出る樣な猛練習に餘念なく初秋のグラウンドも活氣に滿ちくてゐる。對東大戰も愈後一ケ月に迫り一勝一敗の後をうけた今年は是非勝たねばならぬと、既に選手は各部署を定めて準備をさくく怠りなく森田氏の熱心なコーチの下に專心技を練り、合宿所を淨土寺西田町五九大文字館に移して日々愉快な合宿をつゞけてゐる。

學界の雄を會して 權威ある研究の發表
日本學術協會第二回大會の 講演題目等決定す

既報十月十六日より四日間本學に於て開催さるゝ日本學術協會第二回大會の日程、講演題目等は左の如く決定した。

十月十六日（午前九時）

◇開會の辭　副會長　川村多實二
◇歡迎の辭　府知事、市長、商業會議所會頭
◇議事　會務報告、規則に關する協議、次期役員選擧、第三回大會開催地決定
◇會長演説　醫博　荒木寅三郎

講演題目

十月十六日（午後一時）

第一部演説（法學部第二教室）

○演ピストン・リング及び金屬パッキング環に關する研究（三十分）　工博　大河內正敏
○火山の噴出物の成因及び地球核の性質に就て（三十分）　理學士　海老原敬吉　理博　小野澄之助
○酸性白土の性質と作用に就て（三十分）　工博　小林久平
○「カオリン」の諸性質（二十五分）　理博　神津俶祐
○植物體中含窒素化合物特に有機鹽基に就て（二十分）　農博　吉村清尚
○鋼の組織と刃物の切味（四十五分）　理博　本多光太郎

第二部演説（法學部第三教室）

○細菌に依る空中窒素の利用に就て（二十五分）　農博　麻生慶次郎
○人類生物學の目的（四十分）　理學士　畑井新喜司
○比較心理學最近の趨勢（三十分）　文博　黒田源次
○氣管腺に就て（十五分）　農博　石渡繁胤　農學士　櫻井基
○組織鐵に就て（三十分）　醫博　勝沼精藏
○植物の疾病に對する抵抗性及び免疫性（四十分）　理博　宮部金吾

第三部理科教育講演（法學部第三教室）

○各國に於ける小學校理科教育の比較考察（二十分）　川本宇之助
○徳川時代に於ける長崎及び豐後の理學者（三十分）　理博　桑木彧雄
○General Science に關する研究（三十分）　大嶋鎮治
○混虫の生態と其の研究方法（四十五分）　理博　湯淺八郎
○我國の化學教育に就て（三十分）　理博　龜高德平

十月十七日（午前九時）

第一部演説（法學部大講堂）

○自然科學の研究と教授について（三十分）　理博　小川琢治
○日本嶋の海岸地形（三十分）　理學士　辻村太郎
○Rotor Balancing に就て（三十分）　工博　末廣恭二
○漆の酸化酵素「ラクカーゼ」に就て（二十分）　農學士　角倉邦彥
○三回觀測により惑星軌道の確定（三十分）　理博　平山信
○日本刀（三十分）　理博　近重眞澄
○北海道火山近時活動の特徴（二十分）　理學士　田中館秀三

第二部演説（第三教室）法學部

○「あさがほ」に於ける帶化の遺傳に就て（三十分）　理學士　山口彌輔
○親子の血清學的鑑別に就て（三十分）　醫博　古畑種基　市田賢吉　岸孝義
○遠心自律神經系の二重支配法則と求心性自律神經系の二重支配法則（四十分）　醫博　石川日出鶴丸
○藥學の新研究方面（三十分）　藥博・服部健三
○稻の脫粒性に就て（三十分）　農學士　田畑清光

十月十七日（午後）

第一部演説（法學部第二教室）

○物理學の今昔（一時間）　理博　長岡半太郎

十月十八日（午前九時）

第一部演説（法學部第二教室）

○九州の古代三紀層（三十分）　理學士　長尾巧
○絲條斑自動表示機に就て（三十分）　工學士　棚橋啓三
○土壤生成原理の最近科學觀（三十分）　理博　脇水鐵五郎
○所謂殺人光線（三十分）　工博　八木秀次
○アンモニヤ式曹達灰工業の原料として我國の食鹽に就て（四十分）　工博　西川虎吉　工學士　中原省三
○結晶表面の溶解の仕方に就て（三十分）　理博　松原厚
○X線による金屬單一結晶晶軸の方向を決定する一方法（二十分）　理博　吉田卯三郎
○多價アルコホル類の新反應（二十分）　理學士　田中憲三　理博　眞島利行
○混凝土の耐熱性に就て（三十分）　工博　平野正雄
○我國に於ける含銅硫化鐵鑛處理法の將來（三十分）　工博　渡邊俊雄

第二部演説（法學部大講堂）

○第四回國際土壤學會議の狀況（二十分）　農博　木田芳三郎
○本邦に於ける作物育種事業に就て（三十分）　農博　寺尾博
○日本石器時代の人類に就て（三十分）　醫博　清野謙次
○アイヌの體質（四十五分）　醫博　足立文太郎
○可溶性水銀劑に就て（三十分）　藥博　武田二郎
○細胞內原形質の運動（四十五分）　理博　藤井健次郎

第二部演説（法學部第三教室）

○結核病の本態及其の豫防治療の原則（三十分）　醫博　有馬頼吉
○明太魚の化學並にその榮養價値（三十分）　農博　奧田讓
○竹類の開花と布袋竹の花形に就て（三十分）　理博　川村清一
○我「プラスマ」の構造觀（三十分）　醫博　塚口利三郎
○水の衞生學的研究の一方面に就て（三十分）　醫博　勝矢俊一
○我國林業の現在と將來（三十分）　林博　白澤保美
○醫學上より見たる死及死後　醫博　小南又一郎
○脂肪及びリポイドに就て　農博　鈴木梅太郎

拜觀　十九日（午前）京都御所、二條離宮、修學院離宮等
見學　十九日（午後）上野製作所、鐘紡工場、市營芥燒却場、陶器試驗場、各種工場等
懇親會　十六日午後六時半大學本部階下にて、會費二圓、申込は十日まで
招待會　十八日午後二時岡崎公園內平安神宮神苑にて市長商業會議所會頭主催の會員歡迎招待會あり

通俗講演（公開）

十月十七日午後七時（京都府教育會と共同主催）

京都市の部（會場岡崎公會堂）
○生物と氣象　理博　築地宣雄
○電氣機械の格定　工博　荒川文六
○化學工業と國家經濟　工博　井上仁吉

大津市の部（滋賀縣教育會と共同主催）會場大津市疏水側滋賀縣公會堂
○湖水の話　理學士　田中阿歌麿
○人造絹絲に就て　工博　[illegible]郁三

十月十八日　午後七時（京都府教育會と共同主催）

京都市の部（會場岡崎公會堂）
○最近建築樣式の話　工學士　石本喜久次

臨時會員募集
締切は十月十日

前記の如く同大會は我國に於ける斯界の大家を集め頗る權威あるものであるが特に希望者の爲め臨時會員を募集してゐるから希望者は申込書に所要の事項を記入し十月十日迄に金一圓を添へて京都帝國大學本部內日本學術協會京都出張所（振替大阪七七五七一）宛申込めばよい、歡迎招待會拜觀及見學は人員制限の都合上臨時會員の全部或は一部の參加を斷るかも知れないが若し演説及講演のみの出席ならば十日以後でも申込が受理される

全日本有信會大會
十月三日、本學に於て開催 園遊會は平安神宮で

本學法學部有信會は去る大正十年春教授、先輩、學生の三者間相互の親睦を計る爲め創立されたもので學術研究の發表を目的とする法學會と相騈んで着々活動を繼續して來た。然し從來は活動範圍も學內に限られ學生教授間、時に先輩を招待しての懇親に努めてゐたが學內懇親の實も擧り會の基礎も鞏固となつたので餘力を學外諸先輩との連絡に用ひんとしてゐた處、偶々本年は同會創立滿五周年に相當するので此機會に全日本有信大會を開催する事に決し、學內委員は去る七月以來先輩側と種々交渉して漸く纏まり左記の通り發表された。

期日　十月三日
場所　午前十一時本學大講堂に於て大會　午後一時平安神宮神苑に於て園遊會
會費　先輩參圓、學生一圓

尚準備委員は左記先輩を始め二百五十餘氏である。（順序不同）

有田邦敬▽賀々美武夫▽近衛文麿▽清瀨一郎▽水津瀾吉▽大道良太▽八條隆正▽原邦造▽山本幸枝▽甘糟勇雄▽伊賀歐吉▽高原操▽松原權四郎△齋藤三郎▽前田鑛千代▽村野美雄▽宮越正生▽山田卯三郎▽鷲野米太郎▽濱崎照胤

噂さのJ・B・M・B 學術放送の眞相
許可は數年前にとつてあるが ……と鳥養先生のお話

「J・B・M・Bこゝに耳新しい話がある、京大電氣科では近々に學術放送をやる。云々」の報道が二三の新聞紙に依つて喧傳され各人各樣の期待を抱いて待つてゐたが未だ我等のアンテナを通じて何等の福音も傳はらない。そこで電氣科教授工學博士鳥養先生にその眞相を伺ふと、『なあに、實はからですよ』と極く氣輕に

私が留守の時でしたが、某新聞記者がやつて來て、なにかと助手と話をしてゐたが、助手は一々『さうですね』位の返答をした程度だのに、すぐ翌日の新聞に其の記事が出てゐたのです。放送の設備や、波長、使用時間等について當局の許可は數年前から得てあるので、今更新しく設けた譯ぢやないんです。それで最初から若しも大學本部だとか各學部から、學術研究の結果を印刷物等で發表する以外、これをラヂオで學術放送したいと言はれた時には、喜んで應ずる考へだつたのです。云々

とおつしやる。事實は右の通りだが、J・B・M・B京大電氣科放送局から、學術放送の爲されるとが噂では無くて、實現される日を待つてゐる。

比企先生の還曆祝ひ
と井出先生の御歸朝歡迎を 兼ね來る廿四日樂友會館で 水曜會大會を開催

廿四日午前九時より樂友會館に於いて比企先生の還曆祝賀と井出教授の歸朝歡迎とを兼ねて水曜會大會が催される。既報の如く比企工博は採、冶金教室創立以來の功勞者で鑛物學の元勳であるが、此機會に先生の御功績に對して同教室卒業生は衷心より感謝報恩の微意を表する。又、井出教授は約一箇年に亘り濠、阿、歐諸國に出張し親く調査研究せられた各地鑛業事情に就き講演せられる。大會順序は

A、講演（午前九時開會）
一、開會の辭　會長　齋藤大吉氏
二、飛行機發動機用滲炭用鋼の性質と滲炭後の成品に就て　三菱內燃技師　石澤命知氏
三、泥鑛浮選法の一考察　古河鑛業技師　伊藤光二郎氏
四、アルミニウム中の夾雜物に就て　助教授　原田隆康氏
（晝食後休憩一時間）
五、臺灣の鑛業に就て　臺灣總督府技師　高橋春吉氏
六、液體酸素爆藥坑內爆破實驗　久原鑛業技師　鈴木富治氏
七、朝鮮の金鑛開發に對する私見　總督府技師　鈴木哲郎氏

B、比企先生還曆祝賀記念品贈呈式（午後五時—六時）
◆會長の挨拶◆卒業生總代の挨拶◆學生總代の挨拶◆記念品の贈呈◆比企先生の謝辭

C、晩餐會（午後七時開宴）
一、挨拶　會長　齋藤大吉氏
二、濠、阿、歐米旅行談（幻燈使用）　教授　井出健六氏

比企博士の事ども
緒方　正井治

治採冶鑛物標本室に世界で有名なる六つの隕鐵の中の一つと稱せられる岡野號が安置してある。この隕鐵の研究で比企博士は世界的になつて、曾て米國の或る博物館へ行かれたとき勿論誰も比企博士とは知らぬからコーヒー杯も御馳走するものもない。先生は早速隕鐵陳列部へ行かれて「私は隕鐵の比企である」と一言云はれたところ館長は「あゝあの隕鐵のプロフェッサー・ヒキにてありしか、會ふことの如何に嬉しきとよ！」とばかりかたい握手をしてコーヒ一杯どころではなかつたと云ふ。

（猫の鈴）先生と一緒に比叡山へ登ると疲れを知らずに何時の間にか頂上に着く。先生はあの大きな元氣な聲で快談の絹間なし、何のとはないラヂオのラウドスピーカーを持つて步いて居る樣なもの、その代りに兎狩りのときは、先生と一緒に行つて一匹もとれたことなし。

河上博士令息逝去

本學經濟學部教授河上博士令息は去る十一日逝去十四日午後二時より三時迄の間に寺町二條下る妙滿寺に於て告別式が行はれた

松之助氏葬儀に會葬　曾て本學園遊會餘興に二度まで義俠的に出演した日活の尾上松之助氏は十日逝去されたが十六日その葬儀に際し本學學友會から會葬して哀悼の意を表した

お洗濯のシーズンで御座います

湯あみ遊ばして洗ひたての衣類をお召しになる位お氣持のよいものは御座りませぬ。カラ。カフス。シャツの洗ひたての御氣持ちのよさ!! お洋服のクリーニング。お子供達の御服もきれいに致しますのは

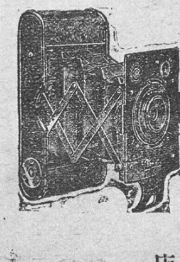
宮內省御用　京都帝大購買組合指定　京都市上京區高野淸水町　電話上二一六五番
是非御用命願上候
賀茂川洗濯合資會社

洋服は寺町通丸太町南 ナガヤ 電上四六三番

赤玉ポートワイン
朝夕の一杯 百藥に優る

595

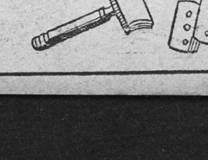
初めての方に使ひ易い
パーレットカメラ
M・A付 十七圓
デルタス付 二十五圓
勉學の餘暇を利用して靜な生に篠ちた秋の郊外にカメラと一日の淸遊も趣味深いことです
……寫眞參考書各種取揃あり……



カタログ進呈
大阪長堀橋南詰
小西六大阪支店　本店 東京本町

寫眞器械材料一式
京都帝國大學諸官署御用商
目錄御入用の方は印刷實費郵稅十錢御郵送を乞ふ
サノ寫眞店　京都市丸太町寺町　電上三五四番
技術部　寫眞撮影　現像燒附　寫眞版印刷一式

安全剃刀　西洋剃刀
安全替刃各種　家庭用理髮器具一式
京都三條寺町西
京谷剃刀店



指定旅館

岐阜市今小町　玉井屋　長良　電話六五番　八一四番
◇瑞典皇儲の台覽を辱うした長良川の鵜飼へ!!

西洋料理・日本料理　宮島ホテル　安藝嚴嶋

近江石山　柳屋　電話（大津）五四〇（石山）二番

新英蘭の思ひ出（一）

在牛津　石田憲次

米國ではこの頃その發祥の地とも言ふべき新英蘭を輕蔑する風が有るやうだ。さうしてその代りには、中西部とか西部とかを讃美するのである。この傾向には、米國人の自負心、愛國心が大分作用して居るかと思ふ。米國人は近頃その國勢の盛に成ると共に、凡ての點に於て、歐羅巴なり英國なりから特立し隔離したい希望を持つて居る。さうして何か舊世界に對して誇るべき自分自身のものを探し出さうとしてゐるのだ。今迄はただ英語と言つて濟してゐた國語をわざ／＼『米語』と呼び出した如きは、その最も著しい現れであらう。かう云ふ心理狀態を以て新英蘭をみると、どうだらう。第一その名前からして、如何にも植民時代の臭氣を脫し得ないのが厭に成りはしまいか。

それに當ては、亞米利加の誇であつた新英蘭の宗教學術の傳統、心情品性の遺産が、最早多數の米國人とは、そりの合はぬ厄介物と成つてゐる。氣候は始終春のやうで、土地の下を少し掘れば、石油がふつ／＼として湧き、あらゆる柑橘、野菜は肥料無しで出來ると云ふカリフォルニアやミスリー、ミスイシピイの川が悠々として流れる所、小麥、玉蜀黍の靑波が眼路の及ぶ限り擴がつてゐるやうと云ふ中西部地方から、新英蘭に來ると、これはまた何たる違ひやうであらう。新英蘭人の氣質は、昔からよく蘇格蘭人のそれに比較せられるが、それは幾分地味氣候の相似から來るものであらう。『アンクル・トムスキャビン』と云ふ今では餘り人の讀まぬ小說を讀んだものは、覺えてゐるだらう。あの中に出て來る新英蘭の伯母さんとニューオーレアンスのイーヴの家の人々の氣分の相違を。今日、桑港、ロウサンジエルスを見た眼でボストンをみると、凡てが古臭くちゞむさく、活氣が無いのに驚かざるを得ぬ。道路を歩く女の服裝の色の變化が甚だ乏しく、一體に地味で質素なのは、この感じを非常に助けてゐるだらう。今日繁榮を誇る中西部や西部や或は南部の地方では、最早かの新英蘭を、貧乏な癖に高慢ちきな、時代後れの白髮爺くらゐにしか思つてゐないのだ。それは恰度、新分限が貧乏な公卿華族をみるやうなもので。今日米國で第一流の批評家のやうに言はれてゐるメンケンの如きは、この新英蘭に對する反動の唱首であるとも言はれやう。ホイットマン、マアクトエインが眞の亞米利加文學の親のやうに言はれるのも、彼等が意識的に舊世界に反抗し、荒削りの土臭い中西部の味方となつた點にある。近頃評判のシンクレア・ルーイスの小說が人氣に投ずる所も、中西部人の醜い現實を暴露しながら、なほ其處に洋々たる希望を認めやうとしてゐるによりはしまいか。米國文學史をかうした立場からみやうとしたものに、日本でよく讀まるゝ『近代文庫』中の一冊、メイシイの『米文學の精神』が有る。

私はこれは殆ど必然已むを得ざる時代の勢だと思つてゐる。今日の米國を淸敎徒時代、獨立戰爭時代の昔に還さうとしても、それは所詮及び難き事であらう。如何にも、現代性と云ふ事は、結構な事である。これを缺く時、人は最早その隣人から耳を傾けられない。彼は衒學者、舊弊家の譏に甘んじなければならぬ。生きた人間よりも死んだ書物が好きだ、編まれつゝある歷史（HISTORY IN THE MAKING）である所の新聞記事には全然興味が無くて、遠い希臘羅馬でなければ夜があけないと云ふやうな人間に對して、世人が親みも同情も感じないのは、無理だとは言へない。さうしてこの現代性と云ふ事は、今日の米國人の一美德だと言へるだらう。

併し一面に於て、それはまた大なる缺陷なりと言ふ事が出來る。橫のみでなく、縱に、現代のみでなく、過去に生くる事が出來るのは、人間の特權である。人間の思想の深みは多く此處から來るのである。歷史を解する人、よき意味に於て傳統を受繼いだ人の頭の中には、アダム以來生き死んだ人間の智慧が宿つてゐる。八百萬の神々が彼を守るのだ。彼は新奇を趁ふて走らず、流行に隨ふて移らない。彼にはいつも從容迫らない落着きがある。今の米國に缺けてゐるものは、正にこれである。見給へ、今日の米國人ほど新しいものを喜ぶ國民が何處にあるか。從つて又新しいものに欺され易い國民が何處にあるか、SCAREHEADとか言つて、徒らに大きな活字で人の耳目を聳動しやうとしてゐる新聞、一方歐羅巴で、少しでも名の賣れた人間を金の力で呼寄せて謦咳に接すると共に、他方何の準備もなく、たゞ世界を漫遊して、アルバムに蒐めた寫眞の多さを誇らうとする彼等の淺薄な好奇心。米國人のこの惡傾向に對して、新英蘭は確に一種の解毒劑たるべきものを持つてゐると思ふ。私には、新英蘭は地球上での一つの懷しい處たるを失はないのである。ハイメッタス、カピトルの丘の麓、テムズ、セイヌの川の畔とは比ぶべくもなけれど、コンコオドの森蔭、プリマス、セイレムの岸邊には、忘れられない人間の魂の故鄕が有る。

新英蘭が私に對して持つ魅力は凡そ三つの要素に歸する事が出來る。第一は當初の清敎徒のつゝましやかにも亦健氣な精進努力の跡である。第二は獨立戰爭を中心とする樣々の追憶である。第三は十九世紀の初、エマスンを中心にして起つた米國の文藝復興とも言ふべき、あの運動に對する興味である。（未完）

「演劇時感」の初めに

山本修二

四五年前には私と一緒に芝居に心醉してゐた仲間の連中が、近頃は芝居のことをトンと口にしないやうになつた。芝居の魅力といふものは、非常に强烈であるだけそれだけ、醉の醒めることも早い、といふのも一つの見方だが、本當の原因は、私達が關西にゐるためにいゝ芝居が見られない、といふところにあるやうだ。

たとへば新しい芝居の一つも見やうと思つても、東京ならば、たとへ少々イカモノ臭いものもあるにせよ、とにかくなにか新しい力の蠢きの感ぜられるやうなものがある。關西では時々眞面目な新劇が起つても、それがとても永續しない。本學出身の野淵君の努力のごとき、あれが關東ならば、とうの昔に立派な成果を生み、恐らく我國新劇史に充分な貢獻をなすべき筈であるが、空しく中絶の形になつてゐる。私たち野淵君を知るものにとつて、同君がいかに演劇を愛好し、そのためいかに惡戰苦鬪して來たかをおもふとき、いつも逹する結論は、いかなる人力を以てしても、到底關西には新しいものゝ芽が吹かないといふ嘆である。

しからば古い歌舞伎はどうか。かつて私は江戶歌舞伎と上方歌舞伎とは、その發生原因が異なるごとく、その表現樣式もまるで違つたものであるから、これを同じ標準で律し、一概に上方歌舞伎を貶することは甚だしく誤つてをることを信じてゐたのであつたが、今にして思へば井の底の蛙、知見の狹さから來た臆斷であるに氣がついた。

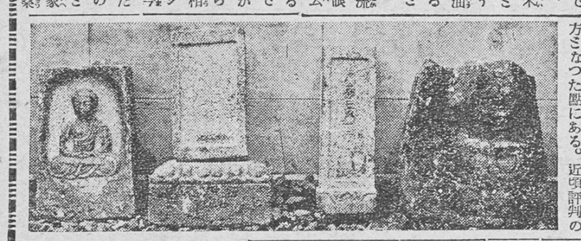
關西の——殊に若い俳優の無氣力はどうだ。努めることを知らないものが、どうして東京俳優の蟲を壓することが出來るものか。東都花形の多士濟々たるに比して、關西の俳優には、誰一人として藝術に精進するものがゐないではないか。東京相撲と大阪相撲、その實力の差違がそのまゝ芝居にあてはまるではないか。

その原因はいろ／＼複雜なものがあるだらうが、第一觀衆がなつてゐない。大阪の芝居などを見ると、つくづくあの土地は藝術の育たないところだと思ふ。それからもう一つの原因は、關西の劇評といふものが、俳優を鞭撻するのに殆ど役立たないことだ。

觀衆の改善といふことは、一朝一夕に出來ることでなく、或ひは永久に不可能かと思はれるが、劇評をもう少し有益にすることは、さまで困難ではないと思ふ。無論新聞の劇評といふものが、さう思ふことをドシ／＼いつても、どこからも干渉が來ないものだ、と思つてゐる譯ではないが、それにしても、もう少し俳優を敎へ、觀衆を導く熱情が現れてもいゝと思ふ。それも關西にまるで人がないといふのでなく、私の尊敬してゐる二三の劇評家もあるだけに、そのことがいよ／＼惜まれる。

私は本紙面を拜借して、時々芝居について思ふことを、いはせて頂くことにした。淺學非才、もとより劇評などは出來さうにない。が、私の幸ひに持つてゐる放たれた立場から、無遠慮にハッキリと物のいへるところが身上だ。その中に私の抱いてゐる演劇に對する熱情が、少しでも現れるなら、望外の喜びだと思ふ。

たゞお斷りしておきたいのは、初めにもいふとほり、京都でいゝ芝居を見る機會といふものは、さう度々ある譯ではないから、ウッカリすると長い間、沈默することがあるかも知れない。芝居のないところに劇評はない。この點は幾重にも御諒承を願つておく。



京の盛場から掘り出された石佛

四條通河原町といへば現代の京都を代表する賑かな街頭となつてゐるが、過日此邊の排水工事に際し地下約十尺の深所から十有八體の所謂「お地藏さん」が發掘せられた。時恰もう盂蘭盆の日に近かつたので、口さがない京童の信仰心を起し、忽ち提灯が立ち寄進の品々が物見高い京の街角に時ならぬ光景を呈した。日々刻々の參詣に賽錢の始末に困つた京都市役所から全部を本大學に受け陳列館の中庭にズラリと並べられてゐる樣である。扨て之等の深所から出現した石佛は恐らく昔時その地點附近にあつた金蓮寺に納められてあつたものだらうと云はれる。これらの石佛には種々の面相のものがあつて中には可なり古いと推定するものもあるが、寫眞に示したものは足利期を下るものではなからう。（ＳＳ）

佛教學新講座　廿七日から開始

本學文學部佛教學新講座增設の件に就いては本紙前々號に取敢ず報道しておいたが今回愈宗教學第三講座として勅令で發表され、今學期より直に講義が開かれることになつた。但本年は學年半故普通講義二時間だけ開講される筈である。專任教授は未だ決定しないが當分、現に印度哲學の講義を受持つてゐる羽溪講師が兼擔することになるだらう。尚前號では本講座が當分正科目に編入されることはあるまいとのことだつたが、去る七月一日の教授會議では正科目と決定した、それ故今後哲學科學生は全部聽講しなければならぬ筈だが、學生の負擔の過重を顧慮して恐らくは、印度哲學か佛教學かいづれか一つを選擇すればよいことになるであらう、たゞ之等を專攻せんとする者にとつては兩者は共に必要である故、全部必修といふことにするか又は他に然るべき選擇し得る科目を定めるかその間困難な問題が存する爲め、未だ決定せられずにゐる。何れ教授會議に上ることであらうが兎に角羽溪講師の新講義は月曜一—三、第八番教室に於て此廿七日より始められる。

哲學科新講義

去る八月十九日附で本學文學部助教授に任命された天野貞祐氏は、來る十月一日より哲學科特殊講義として『カント就職論文の研究』に就て講義されると決定した、時間は木曜八—九・第十番教室。尚講師未定の爲め一學期中休講した哲學の講讀も同助教授の擔任として十月一日より第十九番室に於いて開講される、時間は金曜二—四。

京大三高俳句會

京大三高俳句會例會は來る二十九日（水）午後五時から學生集會所乾室に於て開催、同好諸君の來會を歡迎する由

新刊紹介

歐米觀察　過去より現代へ　文學博士　三浦周行著

本書は去る大正十一年大戰後の歐米諸大學の史學の研究及び教授の狀況に併せて大戰の國家社會に及ぼした影響視察の目的を以て渡歐された著者が歸朝後公私の暇々にものされた見聞錄である。はしがきの中に著者は「此旅行に於て私はつとめて我學ぶべき彼の長所を把握しやうと努力した」と述べて居られる。惟ふに歐米諸國に於て自國の歷史の研究が日本程進歩してゐないところは多くあるまい。それにはもとより種々の理由もあらうが研究の方法や機關に於て缺くるところの多いことが其最主要なる理由でなければならない、されば著者は多くその點に意を用ひ各國の主なる大學を訪ねては特にその研究室の設備を視察しそこに行はれる教授や演習の方法の特色を窺ひ——英國のテュートリアルシステムと獨逸のゼミナールとの比較に極めて興味深い觀察を下して居られる——又日本においては未だ何處にも存在しないところの古文書館に注意してその性質組織等を調査し古文書の蒐集保存陳列等の方法を研究し、博物館に於ては國民の後援特に民間有志の組織する同朋會の存在に留意し、更に史的遺物の保存方法地方史の狀況專門雜誌の經營夏期講演會等凡ゆる方面に銳利なる觀察と細心の注意とを向けて、それらの有する長所を殘す所なく指示し盡してゐる。斯樣な內容を有つた本書が數多い歐米見聞錄と異り如何に特色あるかは今更云ふ迄もない。それは單なる見聞錄といふよりはむしろ一個の論著と見做すべきであらう。さればとて本書は決して乾燥なる敍述のみに終始せるものではない、各國間に於けるスパイの活動とか信仰心の減退と英雄崇拜熱の勃興とかその他種々興味ある問題に著者の自由な筆は愈々伸びて讀者を始終ひきつけておかないでは已まぬものがある。就中我々に最も興味深いのは各國の大學に於ける學生の困窮と米國學生の豪奢振り、男女學生の趣味の相違と男學生女學生排斥運動、ダンスとフェーナスの誘惑とそれから茶目振りの發揮等々實に赤裸々な彼等の生活の有樣である。伊太利人民新聞社樓上に於けるムッソリーニとの會見記の如き亦編中隨一の讀物たるを失はぬであらう。四六判本文五〇〇頁殆ど毎頁に寫眞が挿入されてゐる。（市內西洞院七條南內外出版株式會社發行定價三圓八十錢）

ロイドインキ
豆形二号入　六号入　十二号入　廿四号入の各種あり
各地文具紙店ニアリ
東京　鈴木インキ店

帝國大學御用
白服專門
診察衣　看護婦服　實驗服　作業服
京都市竹屋町寺町東入
福田洋服店
電話上二一五九　振替大阪二八二九〇

ヘルメス　ウ井スキー
酔を買はんとならば世界の名酒の酔に如かず
H 209

利益配當附
新種養老保險
保險界の驚異！
日本一安い保險料
（案內書進呈）
東京・日比谷公園前
愛國生命

京都市內優良藥種商

醫療用藥品　化學用藥品　製造、直輸出入
京都市二條通烏丸西
半井萬商店
電話上壹貳五四番

醫化學藥品問屋　酸素、炭酸瓦斯　各壓縮賣元所
京都市二條通寺町東
近藤延壽堂藥局
電話上一五九七

三共株式會社製品取扱所　一般新藥類　化學用藥品類
京都市烏丸通二條上ル
三共組
電話上參壹壹壹

化學藥品及附屬品
京都市祇園富永町一〇八
ヨシダヤ化學藥品部
電話中一九二六番

藥品一般
京都市寺町今出川
福知藥局
電話上八三八番

安價ニシテ効能本位ノ家庭賣藥調合
京都市出町今出川上ル
出町藥局
藥劑師　茶木道明
電話上一五九四番

處方箋調劑　衞生百貨　計量器販賣
河原町通荒神口上ル（電車停留所前）
資生堂チエーンストアー
西川藥局
電話上二一〇八番

醫工寫和計販　化學用藥品　業眞洋量器　用藥化粧品料　入用器化用酸素販賣
京都市河原町丸太町下ル東側
山下藥局
藥劑師　山下勇吉
電話上一六〇一番

醫藥品、化粧品　食料品　度量衡器　計量器
京都市上京區熊野神社（電車停留所前）
東山藥局
電話上三一四〇番
振替口座大阪一五・一七一番

醫藥一般　化學用藥品　新藥血淸類　度量衡器計量器
京都市古川町三條南
織田藥局
電話中八九二番
振替大阪三八〇五番

補血と榮養素を完全に具備せる理想的强壯劑
芳香佳味　副作用絶無　食慾亢進
ブルトーゼ
—如何に効果の卓越顯著なるかは—
現今强壯劑中刀圭界に於て多年の信用と賞讃を持續せるはたゞ本劑あるのみなるに徵せられよ

改正定價表
補血强壯增進劑　單味ブルトーゼ
神經質疾患特效劑　アルゼンブルトーゼ
腺病質特效劑　ヨードブルトーゼ
健胃補血强壯劑　キナブルトーゼ
呼吸器系疾患特效劑　グアヤコールブルトーゼ

說明書文献進呈
發賣元　藤澤友吉商店

蛔蟲の驅除　豫防に
毎月缺かさず用ひられよ
世界的權威ある蛔蟲驅除新藥
マクニン
芳香佳味　効力偉大　副作用絶無
本劑の種類　錠劑　散末　液
社會奉仕の爲各學校にて御使用の分は錠劑千錠入に限り特別割引す
發賣元　藤澤友吉商店
說明書文献進呈

京都帝國大學新聞
大正十五年九月廿一日
第廿號
附錄

豫審決定書に依る

事件の内容

第一 治安維持法適用の理由

大正六年の露西亞大革命後に於ける世界思潮の混乱と無産階級の擡頭とは我國の思想界に少からぬ影響を與へ各大學專門學校の學生生徒にして社會問題の研究に志す者增加し其の研究團體を生ずるに至りしも未だ何等の連絡を統一は存しなかつた、然るに大正十一年露西亞飢饉救濟運動の起るを機として之等團體は相互に連絡を執り同年十一月七日露西亞革命記念日を卜して學生團合會を組織してより其勢力は漸次全國に及び大正十三年九月には東大學生搾所に全國學生社會思想研究團體の第一回全國大會を開いて學生社會科學聯合會を創設し『マルキシズム』を標榜する大衆運動に進展せしむべきことに定め、關東、關西、東北の三地域に從つて各聯合會を確立して全國的に統一的聯合體を形成するに至つた、次いで十四年七月京大學生集會所に第二回全國大會を開催するに及び同大會を日本學生社會科學聯合會と改稱して、學生社會運動の一般方針を確立し『マルキシズム』を其指導精神となし無產階級運動の一翼として新社會を創造することを目標とし爾來同方針の下に種々活動し來つたが同年末に於ては加盟校約五十九、會員數約千六百名を算するの隆盛を見るに至つたが之等の中心人物たる各被告人は孰れも『マルキシズム』『レニニズム』の思想を抱懷し學生及び無產階級に對し組織的に之等の思想を普及し之を指導訓練して所謂無產大衆を抱擁する大團體を創成し、組織的大衆の運動により大衆運動を目標として爾來同方針の下に種々活動し來つたが同年末に於ては加盟校約五十九、會員數約千六百名を算するの隆盛を見るに至つたが之等の中心人物たる各被告人は孰れも『マルキシズム』『レニニズム』の思想を抱懷し學生及び無產階級に對し組織的に之等の思想を普及し之を指導訓練して所謂無產大衆を抱擁する大團體を創成し、組織的大衆の運動により

（中略）其の實行に關し種々協議をなした

第一

日本學生社會科學聯合會に於ては將來の運動の一般方針を統一的に確立する爲第二回全國大會『テーゼ』の作成を必要とし

【一】大正十四年六月二十五日關東聯合會代表委員會を開き被告人後藤壽夫、清水平九郎及び衣谷賀眞を『テーゼ』起草委員に擧げたので右三名は同月下旬東京新人會本部に會合し學生社會運動の一般方針に關し（中略）テーゼ關東案原稿を作成し

【二】同年七月七日東京新人會本部に於て關東學聯代表委員會を開き被告人衣谷賀眞、秋笹正之輔、清水平九郎、村尾薩男、後藤壽夫等は右『テーゼ』原稿の各記載事項に亘り協議を遂げて承認可決し

【三】被告人山崎雄次は被告人村尾薩男の慫慂に基き大正十四年七月十四日頃東京都市北白川なる京大社會科學研究會本部に於て大會『テーゼ』關西案を作成したが、右關東關西兩案は何れも其內容過激に亘り且つ措辭穩當を缺くものあつたので之を公開の大會席上に於て其儘上程審議するとを慮り同日頃被告人是枝、村尾、野呂（榮太郎）、山崎等は同所に於て談合の上右兩案並に是枝の作成にかゝる大會『テーゼ』補足案等の各趣旨を綜合し、措辭稍穩健なる大會『テーゼ』新草案を作成し之を上程すべき旨の協議を遂げ、是枝に於て執筆し

【四】愈〻七月十六日京大學生集會所に於て學聯第二回全國大會を開き被告人是枝、村尾、松本（篤一）、清水、野呂、秋笹、實川（清之）、石田（英一郎）、櫻本（省三）、山崎、鈴木（安藏）、栗原（佑）、古賀（二男）、武藤（丸楠）、黑田（久太）、內海（洋一）、澤田（政雄）、蓬臺（恒治）、原田（耕）、黑川（健三）等出席して『テーゼ』新草案に基き之を學生社會運動の一般方針たるべき旨の協議を遂げ同案を可決したが、同日は學校當局及警察官の臨席あり徹底的に議案を審議し得なかつたので、又學校當局の注意により撤回した議案もあつたので

【五】翌十七日更に（甲）前記京大社會科學研究會本部に是枝、清水、野呂、石田、櫻本、池田（篤）、武藤、古賀、內海、黑川、栗原等會合し（乙）京都市聖護院中町なる京大社會科學研究會合宿所に村尾、秋笹、松本、實川、山崎、鈴木、淡（德三郎）、黑田、澤田、原田、蓬臺、栗原等會合して、大會『テーゼ』東西兩案並に補足案に就き說明を聽き、結局之等の趣旨を學生社會運動の根本方針たるべし、之に從ひ運動に從事すべき旨の協議を遂げ尚全國的教程を定めたる外種々の事項を協議した

第二

【一】日本學生社會科學聯合會に於ては學生社會運動の目的達成の爲め同會員一般の教育方針及教程を統一的に確立するの要を認め（一）十四年九月上旬是枝、清水は前記新人會本部に於て學聯の教育方針及び全國的教程の確立に關し清水平九郎の作成に係る教育『テーゼ』骨子及び全國的教程に付夫々マルキシズム的一元教育を中心分子の本質任務に關する協議をなし之を日本學生社會科學聯合會の教育テーゼ骨子と全國的教程草案とな可きことに決した

【二】關東聯合會に於ては十四年九月中旬東大新人會本部に常任委員會を開き是枝、清水、後藤、村尾、野呂等會合し、又同月二十日頃東京マグドナルド教會に代表委員會を開き後藤、清水、松本、實川、秋笹等會合し同年第二會期中に於ける聯合會の計畫及秋季總會に提出す可き提案に就き協議し同日二十六日には東京芝三田四國町日本勞働組合評議會關東地方評議會本部に於て關東學聯總會を開催し社會運動の一般方針に關し大會テーゼと同趣旨の協議をなして承認可決し又會の教育『テーゼ』及び教程を作成することを協議可決した

第三

京大及び同大の各社會科學研究會にありては豫てより研究及び活動の單位として班組織を採用してゐたが全會員の結束を有機的に强固ならしめ班生活の方針を確立する爲め班生活『テーゼ』を必要とし

【一】同年十一月上旬、同志社大學社會科學研究會本部に被告人宮崎雄、內海、澤田、大澤等會合し、班生活に關して協議を爲し班生活テーゼを作成し

【二】十一月七日神戸關西學院において關西學聯大會を開催した翌日、櫻本、池田、石田、原田、岩田（義道）、永井（哲二）、黑田、內海、宮崎、大浦、原田、黑川、小崎等は神戸市外西灘村原田、成宮音次郎方に秘密總會を開きて教育テーゼ及び、班生活テーゼに就き協議を遂げこれを關西聯合會に採用した

第四

十四年十一月七日神戸に於ける關西學聯總會に於て校內運動に關する一般方針が議せられたが之に基き同年十一月下旬京都市寺町通今出川上る被告人櫻本方に於て櫻本、山崎、太田等は協議を遂げ、校內運動の一般方針に關する『テーゼ』を作成した

第五

同年十二月廿五日東大第二學生搾所に於て日本學生社會科學聯合會全國執行委員會を開き被告人清水、松本、秋笹、池田、櫻本外數名は學生社會運動の戰術及び教育に關し協議したが、（甲）學生社會運動に關しては（イ）自由主義團體との接觸（ロ）反動團體を學生大衆より遊離せしむること（ハ）學校當局の壓迫に對しては校外にありては自由主義團體、卒業生、新聞等を利用し、校內にありてはクラス會其他を利用して學校を學生より孤立せしむること（ニ）中等學校を學生社會運動の組織の組織網とすること（ホ）研究會の解散に備ふるため應急部を設け強盜の處置を取らしめ、又解散を慮り踏め事攻科目による聯盟を組織する事等の事項にわたり

（乙）教育に關しては（イ）未組織學生への煽動及組織（ロ）新入會員への煽動及宣傳（ハ）一般會員への理論の注入と行動への誘致（ニ）中心分子の理論的結成と運動への積極的參加の四段階に分ち教育方法修正につき夫々協議を遂げ教育『テーゼ』を作成することを決定した

第六

京大社會科學研究會員の一部は大正十四年三月頃から始めた無產階級教化の爲め特に『プロカル』部を設けたことゝもあつたが十月三日大阪原田耕方に關西學聯代表委員會を開いた際組織の一部を改正して新に社會部を設けたが是より先き京大社會科學研究會は

【一】同年九月二十日北白川の本部に於て委員會を開き山崎、岩田、淡、藤井（米三）、泉（隆）其他出席して都市勞働者及び農民に對し教化運動をなすに就ての『テーゼ』作成に就て協議を遂げ被告人山崎外數名を作成委員に擧げたので、山崎は之に從つて『プロレットカルト』運動に關する『テーゼ』附『プロカル』教程を作成し

【二】十月四日再び同會本部に委員會を開きて右に關する協議をなし『プロレットカルト』運動に關する『テーゼ』は其の骨子に基き尚詳細に作成し『プロカル』教程は一部修正を加へ共に再協議に附すべきことに決し

【三】同月十七日には同會本部に關西學聯委員會を開き、石田、櫻本、鈴木（安藏）、永井、大浦、原田、黑川、蓬臺、小崎（正潔）等出席して被告人山崎雄次の作成に係る『プロレットカルト』に關する『テーゼ』及『プロカル』教程に基き協議し『テーゼ』は之を承認し、教程に就ては更に協議することゝした

【四】同月十八日には同會本部に學聯京都地方聯合會社會部員總會を開き、勞働評議會員なる被告人上村正夫も出席して、右『テーゼ』の各事項を協議承認し教程は更に協議することゝした

第七

從來京都勞働學校は日本勞働組合京都地方評議會の經營なるが如き觀あつて一般無產者に充分利用せられ難き狀態にあつたが京大社會科學研究會員は此の京都地方評議會幹部と協議し組織的統一ある統制の下に無產者教育を實施せんとし

【一】大正十四年十月二十一日京都地方評議會本部に於て京都無產者教育機關創設明設會を開催し岩田、池田外十數名出席京都及其附近の無產者に對し『マルキシズム』を指導精神とする京都無產者協會を創設すべき事及び同年十一月教育協會創立總會を開催すべき事を協議し準備委員に淡外數名を擧げたが

【二】十月二十三日京都市聖護院中町なる前記淡方に無產教育協會創立準備委員會を開き淡、泉、宮崎等協議して同協會規約草案を作成し同創立總會に於て選定すべき委員を銓衡したが、遂に

【三】同年十一月一日前記評議會本部に於て京都無產者教育協會を創立總會を開き岩田、櫻本、池田、淡、德三郎方に於て過激內容の記載ある『プロレットカルト』運動に關する『テーゼ』附『プロカル』教程を著作し、十月十日頃同處に於て同一內容の『プロレットカルト』に關する『テーゼ』附『プロカル』教程を著作し右は何れもその頃同志の手によつて印刷せられたる上、十月四日同十七日之に關する協議席上に於て出席會員に配布し▲同樣本省三は外一名と共に山崎雄次の著作にかゝる前記『テーゼ』附『プロカル』教程凡そ三四十部を研究會本部に於て十月十日頃印刷した上同十八日同處に開催された前記京都地方聯合會社會部員總會に於て出席者に配布し、尙ほ十一月四五日頃神戸市上筒井町白井方に於て清水平九郎の著作にかゝる學聯教育『テーゼ』骨子附全國的教程凡そ三十部を複寫印刷し同月八日神戸市外原田成宮方に開催せられた關西聯合會總會において出席者に之を配布した

▲同大田遼一郎は十四年十月中旬頃京大研究部會本部に於てスターリン著『レーニン主義の理論と實際』中序言及び第一章乃至第五章並に第七章を抄譯して約廿部を印刷し、同月十八日頃より十一月三日頃に至るまでの間、之を携帶して高等學校巡回旅行をなし、大高、廣島高、及び姫路高等學校の各所在地に於て各その社會科學研究會員に對し三四部宛配布したが右は勞働者政體を變革し國體を紊亂する文書を著作、印刷、發行配布したものである

第三 刑法七四條適用の理由

石田は大正十一年七月十三日北海道を旅行中の日誌及び同年十月卅一日第一高等學校に於ける天長節祝賀式に參列した日の日誌に其感想として記したものが不敬罪を構成するに至つたのである

被學生起訴者及び罪由

（治維＝治安維持法第二條、出版＝出版法第廿六條、不敬＝不敬罪）

罪名		所屬校	氏名	實付又は釋放月日
治維出版	同	京大	大田遼一郎	七、三一實
治維出版	同	同	白石忠三	八、二七同
治維出版	同	大	山崎雄次	八、三〇保
治維	同	大	大浦梅次	
治維	同	京大	岩田義道	七、一四保
治維出版	同	同	淡德三郎	七、三一同
治維出版	同	同	栗原佑	八、一八實
治維出版	同	同	泉隆	八、二九保
治維出版	同	同	櫻本省三	八、二八同
治維出版	同	同	黑田孝雄	八、二七實
治維出版	同	同	熊谷久太	八、二七同
治維出版	同	同	永井哲二	八、三同
治維出版	同	同	內海洋一	同
治維出版	同	同	村尾隆夫	同
治維出版	同	同	賀眞	向
治維出版	同	同	衣谷	
治維出版	同	同	清水平九郎	
治維出版	同	大	鈴木安藏	八、三〇保
治維出版	同	同	石田英一郎	八、二八同
治維出版	同	同	澤田政雄	
治維出版	同	同	菊次	
治維	同	京大	宮崎	
治維	同	同	鷲谷武二	八、二八實
治維	同	同	古賀二男	八、三同
治維	同	同	逸見軍雄	八、二七同
治維	同	同	米三耕	八、二八同
治維出版	同	同	藤井米三	
治維出版	同	同	原田健三	
治維出版	同	同	黑川健三	
治維出版	同	同	小崎正潔	
治維出版	同	同	蓬臺恒治	
治維出版	同	同	是枝恭二	
治維出版	同	東大	武藤丸楠	七、一五實
治維出版	同	京大	實川晴之	八、二八保
治維出版	同	日大	池田篤	
治維出版	同	東大	松本篤一	
治維出版	同	大	後藤壽夫	
治維出版	同	早大	秋笹正之輔	
治維出版	同	大	野呂榮太郎	
治維出版	同	京大經卒	櫻本	八、二八實

社會科學研究の態度に就いて

經濟學部長　神戸正雄

既に出來てしまつた事は殘念であるが仕方がない。かゝる事を惹起した學生の不注意を遺憾に思ふが學校當局こしても不注意であつた事は將來の爲めにも考へて置かなければならぬ。

問題は學問の純然たる研究に留まつて居つて學生の立場を失はざる態度ならば外部から警察や司法官の干渉を受くる譯はない。單に社會科學の研究材料を集め意見を交換する事はよいが、之を外部に向つて文書、演說、新聞、雜誌を以て發表する事は全くの自由ではあり得ぬ。特に社會の安寧秩序を紊し又はその虞ある場合は制限を受けなければならぬ。その點を捉へて官憲が問題にしたこいふのは今日の國家制度のもこにおいては止むをえない。

そこで研究の自由こいふ中でも發表の自由には特に拘束がある。之に就ては形式的にも注意しなければならぬので、問題こせられた社會科學研究會員は其點の注意が足らなかつたこ思ふ。又彼等が彼等の意見こして決議したものは立脚點のしやうに依つては大したものではなく輕く有利に見る事ができるかもしれぬが、私一箇のみる所ではその內容が少し過激ではないかこ思ふ。現在の社會制度が他日彼等の云ふが如くになるこするも、自然に成行くのでなく、これに人工を加へ、其處に進める爲めにあらゆる手段を加へんこするが如き態度は實質的にも穩當を缺くこ思ふ。それも學生の立場からも考へる必要がある。學生であれば同じ事でも單純なる社會人こして行動するのこは多少異らなければならぬ。學生たる以上學業に專念して之を努力するの義務がある。餘暇に諸書を讀み意見を鬪はすのは良いが、學生が實行運動をなし而も危險性をもつた運動を又はその疑ひを受けるが如き事を行ふは學生の本分を外れて居る。

又學生時代には宜しく一主義のみでなく廣く諸主義に涉つて讀み其基礎たる歷史、哲學についても廣く深く識見を養ふべきである。只一の主義に留まり而も其爲めの危險性を帶んだ實際運動をなすが如きは私は不贊成である。即ち形式上からも實質上からも、自分こしては彼等の學動を辯護するを得ない。

大學が從來は之に不注意であり取締も足りなかつたが先般來之に特別の取締を加へつゝあるし、又將來は一層注意して、穩つた社會科學研究會の人々が實際運動をなさず研究本位で行くやうに指導されるここゝ思ふ。

今度問題の刑事被告こなつた少數の人々については、大學こしては私見に依れば單に嚴罰に處するこいふのでなく、彼等の將來の爲めを考へて教育者の立場から善導してやるこいふ趣旨を以て罰する必要があるこ思ふ。彼等も今後は謹愼し悔悟して宜しく舊時の如く實際運動的態度でなく純研究的立場を守るやうになつて欲しい。

今後の社會科學研究會に關してはこれに解散を命ずる方法もあるが併しさうするこ又秘密に研究し一面取締も困難こなり指導にも困るこゝなる、やはり大學部內に公然こ存在せしめたいものである。

今迄研究會員はよく『チラシ』等を撒いたり公開の會などで演說をしたが、それは一面一部の人をして自分等の仲間へ誘引する手段かも知れぬが他面、反感を買ひ、誤解を招き又こもすれば出版法に觸れ易い。又彼等が勞働者の運動に參加するのは工科の人々が實習をなすのこ同樣社會科學研究でも斯くして街頭に立つを必要こするのだこもいふが、それこは多少異る。純研究の上には少しもそんな必要はなく根底から趣が異る。或勞働爭議に關係して學生が勞働者を助ける場合に其勞働者の要求が果して正當なりや否やの判斷はむつかしいこごだ。だから學生はかゝるここに關係するのを愼み純眞なる學徒こしての研究を續くべきである。

學生の思想取締に就いて

法學部教授　森口繁治

思想の取締は現在の如く思想界の混亂してゐる際は困難な問題こ思ふが、殊に學生の思想取締に就ては餘程愼重なる用意が望ましい。大學こ警察こは自ら學生の思想の取締については別の立場を有するものであるから、それが別の行動に出るここは止むを得ぬ事であらう。然し大學も國の機關であり警察も亦國の機關である以上是等の機關は常に相協力して國の行政上の目的を達する事が必要な事こ考へられる。學生は年も若いし經驗も少いし純であるから時こしてはその行動が奇矯或は危險に到る場合なきを保し難い。是等の場合には學生をして正當な道を辿らしめる樣に常に監督を行ひ指導を與ふのは、非常に必要な事であり大學當局も此點は以前から熱心に努めて居られる樣に思ふ。今後こ雖も、もこより同樣であるべきこ考へる。然し多數の學生であるから或は其行動を充分に知る事も出來ない樣な場合があり得る。かゝる場合には關係ある國の機關はなるべく大學に協力して、學生らしい行動をこらせる樣にしてもらひたいものである、假へば警察の如きは種々の機關を具へて居るから場合によつては、學生の行動に就いて大學當事者よりも尙多くの材料を持ち得る場合もあり得るのである。此種の場合には警察はなるべく大學當局に對し注意し相協力して助長行政の目的を果す樣にしなければならぬのである。警察の目的が犯罪人の檢擧或は其の他の公安に關する害惡の除去のみに存しないは云ふ迄もないが、殊に國家機關相互の關係に於ては相協力して國家の行政を助ける樣盡力する事が最も大切である。處が實際はどうも官廳こ官廳この間では協力に缺くる場合が多いのであり、殊に所謂官吏が功名心の爲に焦るこいふ樣な行動に出る場合がある爲、此協力の行はれぬ場合の少くないのは甚だ遺憾である。大學の學生が大學生こして大學の周圍に來る迄には父兄は勿論種々の周圍よりの恩澤が加はつてゐるわけである。學生も社會人こして是等の點に充分反省する所あり輕擧妄動を愼む處がなければならない。然しそれの指導監督に當る者、或は警察權を行ふ者こ云ふ樣な人々にも、學生をして充分にその天分を發達せしめ有用な社會人こして社會に貢獻する人を得る樣に積極的に互に相協力する事を望んで已まない。警察官がジャンバルジャンに對するジャベールのやうな態度を執るここは思想の取締りに就ては一番禁物である。

學生の行動に關して私は斯く見る

法學部教授　田村德治

學生が如何なる思想を抱き、如何なる行動を爲し、依つて起訴せられ、公判に附せらるるに至りたるか、私は尙ほ之を審がにせぬ。從つて私は、彼等を直接に此の點に於て若しくは此點に就て、逐一に批判する事が出來ぬ。だが然し之を一般的且つ抽象的に考ふれば次の如く謂はれ得るこ思ふ。

（一）私は、人々が往々にして毛嫌ひするが如くに、學生の社會運動に從事する事を、それ程に惡いこは考へぬ。社會運動の善惡正否を決するものは、それが暴力を本質こし且つ使用するか、若しくは暴力に依る社會變革を目的こして行はれるものであるか否かに存する。社會運動が右の如くに暴力を本質こし且つ使用し、若しくは暴力に依る社會變革を目的こして行はれる場合には、吾々は、固よりその運動を爲す者が學生たるこ否こを問はず、否認せねばならぬが、然し社會運動が、その以外の方法若しくは目的に於て行はれる場合には、吾々は、又それが學生によりて爲さゞるこ否こに拘らずこれを拒斥する理由を有たぬ。學生も成人たる資格に於て、その眞に信ずる所を實地に實現しやうこする事は、止むを得ぬ欲求こして認められねばならぬ。唯私は、學生が學生たる間は、學生たる本務を忘るべきでないこ思ふ。私は、實に此の點を高調する。すなはち私は、學生が社會運動に從事するも、止むを得ぬこして寬容する。否私は、それが爲には、學生が團結し、結社を組織しても、決して不可がなからうこ思ふ。それ故に私は、一部の學生聯合會のテーゼ又は教程に存するこ聞くが如くにその會の任務を特定主義の普及におくも、それが合法的に正當に行はれる限り、その趣旨に於て許容せられねばならぬこ思ふ。然し之が爲には、學生の本務が疎かにせられてはならぬ。蓋し若し學生がその本務を疎かにする位ならば、寧ろ學生たる事を止めて、初めより社會運動に從事すべきであるが故である。學生にして、學生たる任務を盡さずに、却て社會運動を本業こするは、それ自身矛盾であらねばならぬ。社會運動を本業こする者にして、尙ほ時に學校の講義を聞からこする者は、學生以外の形式を擇ぶべきものこ思ふ。況んや社會運動を本業こするに止まらず、一の組織ある實際運動の手足こして、その組織の命ずるがままに、學生たる地位をその目的に用ふる事は——縱ひ彼等の社會運動に於ける策戰よりして勸獎せられ、否彼等の根本的倫理觀よりして否認せられぬこしても——甚だ以て公正を缺く事こ思ふ。

（二）學生の任務は、飽くまでも學問研究を本位こするものであらねばならぬ。此の點は大學に於て特に强調せられ得る、否强調せられねばならぬここである。實に大學當局の、熱意を以て學生の爲に畫策するも、又事件に關係せぬ一般學生の、警察官廳の處置に對して、反對の運動を起したのも、之を擁護しやうこの氣慨に出づるに外ならぬ。學問の研究は、大學の生命である。大學存在の意義は一に之れに盡きる。研究の自由なくしては、否それを蹂躪せられては、大學の面目は何れに存しやうか。斯くの如く學問の研究は、大學存在の意義の全部若しくは主要部分であるが故に、その研究たるや、純正に、猛烈に、氣品高く且つ氣宇宏大に爲されねばならぬ。學生が、學問研究を本位こして——既に實際に爲しつゝあり、若しくは爲したるが如くに——研究會を作りて、共同に勉學するは、大に善い。然し彼等は、その際その研究を、假へば『社會使命を果すが爲に、明確なる理論を獲得せねばならぬ』こして爲すではなく、かへつて明確なる理論を構成し得やうが爲に、學說を知らうこする態度であらねばならぬ。之が爲には『難解で尨大な書籍は避くべきだ』こしてはならぬ、寧ろ難解且つ尨大であつても價値ある書籍をば、どこ迄も究明しやうこ云ふ氣概が必要である。私は、人々の考ふるが如くに、一部の學生の會合が、社會科學研究の名稱のもこに特定の學問のみを考究し、又、その特定の學問を考究するに際しても、一定の學說のみを最初より正當であるこ豫斷して、唯單にそれのみを知るに努め、他のものをば一向に研究せぬ事を、甚だしく矛盾であるこ考ふるものではない。蓋し成るべく萬遍に、且つ最初より豫斷なく、公平に研究しやうこする態度は、極めて推奬せられねばならぬが、然し研究に選擇を行つて、固より不可なく、又多少の豫斷あるは、人類の免れざる運命であるが故である。然し私は、彼等が所信を構成するに極めて早急であつて、且つその構成を爲すに極めて偏倚せぬかを思ふ。殊に彼等が、その豫斷のもこに自己の信ずる以外の學問若しくは藝術及宗教等を、一般的に欺瞞的且つ痲醉的の敎化であるこ考ふるならば、之を公正に立言して、それは甚だしき曲解であらうこ思ふ。

ホッケークラブ 愈よ發會

成立の機運に向ひつゝあつたホッケークラブもいよいよ機運熟して廿一日（火）午後三時半から學生集會所で發會式をあげた、之は關西に於ける學生チームの嚆矢なのでその重大なる意義こ使命を痛感して發起人諸君は畫策大に努めてゐるが、多數學友諸君の參加を希望してゐる

京都化學談話會例會

京都化學談話會例會は廿一日午後七時より樂友會館に於て開催、演題及び講演者左の如し

一、ダルトン氏の分壓の定律に對する違背に就て　理學部助教授　四手井次太郎

二、還元銅の接觸作用　理學部教授　小松茂氏

合宿だより

來る廿六日に東大戰の封切りをしやうこいふ水泳部はプール近くの藤本旅館に陣取つて奮張りを見せてゐる。さて合宿をのぞいて見るこ名にし負ふ河童達の合宿こあつて色の黑いこご黑いこご木村御大は言はずもがな齋藤君など嶄然頭角を顯してゐる。さて其他の顏ぶれを見るこ名物男の宮原君、本名より綽名で通る『カボチャ君』こ藤井マネーヂャーがゐる。宮原君の名は萬壽、君の話では親爺が慾張つての名こ聞く。嘗て君の手紙が壽をマスこ讀んだので大立腹だつたこいふエピソード入りの名である。こころが兼好の言葉ではないが、名を聞いて察した人物こ實際の人物こは常に實際の方がわるいこいふやうに、マスではさぞやさしい人だらうこ思つて會ふこ、肩幅の廣い衝立の如き宇治山田の米友然たる好漢、合宿ではチョンの旗頭こか聞く。カボチャこ聞くこさぞすわりのいい尻の重い人を思ひ浮べるだらうが、所がなかなかいいこまめに働くし氣はいゝし重寶がられてゐる寵兒だ。水泳部には從來のレコードを破るこ洋食三皿こいふ掟がある。武田武君、上から讀んでも下から讀んでもブタブ君は中距離界の鬪將こして自慢のレコード破りのため洋食の皿が大分たまつてゐるさうな。破つたら其日すぐに食はさずにためてるのは、まさかブタこはいへ一度に十數皿も食へまい。其時には伴食の光榮を荷負ふこいふ野心家の策略ださうな。短距離界には木村、稻垣こいふ剛の者揃ひ、去る十九日の京都學生水上競技聯盟戰には二百米四人で一分五十九秒こいふレコードを作り、關西の水泳界をあつこ言はせた。あつこ言つたのは關西の水泳界のみではあるまい、東大は短距離に確信あるらしい風聞だが此レコードには一驚したこゝ思はれる。其他には榊田、八木、大島、川本、初岡君等、本學レコードホルダーこして重きをなしてゐる。川本君綽名は『ドンちゃん』背泳のオーソリテイだが常にコースを倍にして泳ぐがうこいふ猛者、チクザックコースで時々はプールの壁にぶッつかつたり陸をかいたり。